**第２学年　道徳科学習指導案**

１　主題名　　「きまりを　まもる」Ｃ－１０規則の尊重

２　資料名　　「一りん車」（出典　日本文教出版「生きる力２」）

３　本時の指導

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 主な発問と学習活動・児童の反応 | 指導上の留意点・支援 |
| 気づく  ５  深める  35  見つめる  ５ | ※「廊下を走らない」等を提示  ●廊下を走る子がいる　●きまりを守らない  ○教材「一りん車」を聞き、話し合う。  　●練習して上手に乗れるようになりたい  　●人気があるので他の人に使われてしまう  　●これで次の休み時間も使えるぞ  ※まさきくんは「むねがちくり」、ひでくんは「下を向いて困った顔」の後の２人の心の声を話させる。  　●どうしよう　●ばれてしまった  ●叱られる　　●ごめんなさい  　●先生やみんなに謝らなくてはいけない  　●自分たちだけで使おうとして悪かったな  　●一輪車を使いたかった    ●正直に名乗り出て謝る  　●後から先生に言いに行った  ●隠すことはやめた  ●謝ろうと思ったが、言い出せない  ●あったほうがいい  　●きまりがあると、そのことがうまくいく  　●けんかをしないですむ  　●いやな思いをしない  ●気持ちよく過ごせる | ＊　身の回りの問題からなかなか守れないきまりもあることを認めたうえで、「きまりを守る」ことについて考えるという本時の方向づけをする。  対　机をコの字にすることで、友達の表情や身振り手振りが伝わるようにする。  ＊　わかっていても走ってしまっている自分に気づかせる  主　２人の思いを発表させることにより、一輪車の練習をしたい気持ちが強く、つい自分たちだけのことを考えて勝手な行動をしてしまっていることに共感できるようにする。  対　先生の話を聞きながら、２人はどんなことを思っていたかを考えさせることにより、反省して謝ろうとしている２人の気持ちに気づくことができるようにする。  深　反省して謝るだけでなく「なぜ元の一輪車置き場に戻さなければいけないのでしょう。」と尋ねることにより、一輪車を使いたかった他の人の気持ちにも目を向けられるようにする。  ＊　自分の問題として考えようとすることができる。  対・深　板書を見ながら、２人は誰のことを考えているかを話し合わせることにより、自分たちのことだけを考えていた２人が、みんなのことを考えてきまりを守ろうとするようになったことに気づかせる。  ＊　道徳ノートにまとめさせ、本時の学習の振り返りをさせる。（時間があったら、発表させる） |

なぜ、このポスターが貼られていますか。

２人は、どんなことを思って、体育倉庫の裏に一輪車を隠したのでしょう。

先生の話を聞きながら、困った顔をした２人はどんなことを思っていたでしょう。

⇒動作化（心の中の言葉を言う）

２人は、この後どうしたと思いますか。

何で「きまり」ってあると思いますか。